

平成29年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立谷戸小学校

●全国学力学習状況調査(小6・中3)

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	目的や意図に応じて、話の構成内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話す。	39.0	特に、「書く」能力及び「読む」能力についての正答率が、都平均を大きく上回っている。「書く」能力については、書き方の観点やモデルを示し、学習過程や学習内容を振り返って自分の考えをまとめたり、まとめた文章を交流したりする活動を多く取り入れたことが有効であったと考える。また、「読む」能力については、読み方の習得・活用過程を重視し、内容理解だけでなく読み方の自覚を意識して学習を積み重ねたことが有効であったと考える。	「話す・聞く」能力についての正答率が、全国平均を下回っている。質問紙の回答では、話し合い活動に関する項目の肯定率が高いことから、話す内容や構成を工夫したり、発言の意図を捉えて聞いたりできるような、「話す・聞く」活動の質を向上させていく必要があると考える。話し方、聞き方、話し合いの指導や、課題を踏まえた意図的な話し合い活動を設定していきたい。
	話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える。	71.2		
	考えを広げたり深めたりするために、話し合いにおける発言の意図を捉える。	39.0		
算数・数学	示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断できる。	59.3	A問題は14/15問の正答率が都平均を上回り、定着に成果が見られる。計算問題だけではなく、学習過程全体を踏まえて家庭学習等での習熟を図ったことが有効であったと考える。B問題は、左記の問題を除き都平均を上回っている。記述式の正答率が高いことから、自分の考えを説明したり、まとめたりする活動を継続的に取り入れたことが有効であったと考える。	図や式の意味に関する問題に対して、正答率が低かった。自分の考えを説明するだけでなく、友達が示した式や図から考えを解釈し、見方・考え方を共有する機会を増やしていく必要があると考える。
	示された条件を基に、適切な式を立てることができる。	72.9		
	示された式の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述できる。	40.7		
英語 ※中学校のみ				

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(小5・中2)

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	文の中における修飾と被修飾との関係について理解している。	23.7	自分が経験したことを相手や目的に応じて工夫して書くときに、どのようなことに気を付けているのかを問う問題は、正答率が高かった。相手意識をもたせて書くことを意識させてきたことで、成果として表れたと考えられる。また、漢字に関する問題の正答率が高かった。日頃から定期的にテストを実施し、定着するまで取り組んできた成果だと考える。	正答率が低かったのは、場面の様子を読み取る問題だった。文章全体を読みながら、常に叙述を根拠にして考える活動を取り入れることが必要だと考える。また、文法に関する問題の正答率も低かった。基本的な文法を確認する機会も取っていくことが求められる。
	文の中における主語と述語の関係について理解できている。	31.6		
	叙述をもとに場面の様子を正確に読み取ることができる。	57.9		
算数・数学	並べる回数と並べるご石の数について読み取ったことをもとに、問題を解決することができる。	3.9	A問題の内容では、東京都の正答率を上回っている。その中の思考・判断・表現で、都の正答率を5%上回った。少数数クラスでじっくりと考える機会を増やしていることや、自分の考えを表現したり友達と交流して問題に取り組んだことが成果として表れていると考えられる。	最も正答率が低かったのは、「意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力」をみる問題だった。文章を読んで問題の意味を理解することが苦手な児童が多いため、今後は問題を図や数直線等で表すことを日常的に取り入れていくことが必要だと考える。
	おかしと飲み物を選んだ人数について読み取ったことをもとに問題を解決することができる	5.3		
	量の関係を「基準量×割合＝比較量」の式に表すことができる	22.4		
理科	電気を通す物は金属であることを理解している。	23.7	昆虫の体のつくりなど、自然現象についての知識・理解に関する正答率が高かった。自然現象への関心・意欲が高いうえに、実験や観察などの体験を意図的に取り入れていったことで、知識の定着につながったと考える。	予想が正しかった場合に得られる実験の結果を考える問題の正答率が、低かった。科学的な思考・表現ができるようにするために、理科の中で見方・考え方を示していく必要が考えられる。自然の事象・現象についての問題を、様々な条件で検討する機会を設けて比較したり、関係付けたりして科学的な考え方を養う。
	予想が正しかった場合に得られる実験の結果について考えることができる。	39.5		
	乾電池の数やつなぎ方を変えると、モーターの回る速さや向きが変わることを理解している。	50		
社会	自分たちが通う小学校がある市区町村の位置を理解できる。	30.3	スーパーマーケットの様子を読み取る問題は正答率が96%、年中行事に関する問題は89%だった。正答率が高かった要因として、見学に行っていることや祭りなどへの参加という体験を伴う学習によって理解が深まったと考えられる。	東京都全体からみた本市の位置を理解していなかった。日頃から地図帳や資料集を用いて学習を進める必要がある。また、自分の生活と関連付けて思考していくことを重視していく。
	資料から取り出した情報を関連付け、市の課題を読み取ることができる。	44.7		
	市の課題に対するMさんが考えた解決策について推論することができる。	51.3		
英語 ※中学校のみ				